キャラクター名: アビゲイル・スタートップロード

プレイヤー名:

シンドローム	サラマンダー サラマンダー	ワークス	UGNエージェントB	カヴァー	貴族令嬢
オプショナル		年齢	20	性別	少女（自己申告）
覚醒	生誕	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	母親不在	経験	心の壁	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	4	0	0			4
感覚	0	1	0			1
精神	2	0	0			2
社会	2	0	0			2

HP	30
行動値	4
(非装備時)	4
戦闘移動	9
全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	1		ＲＣ	5		交渉		
回避			知覚	1		意志			調達	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：ウェブ	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
トンファー	白兵	4r-1	3	2		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
ウェポンケース	
コネ：情報収集チーム	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
変異種	P	N		
星	P 憧憬	N 不安		
霧谷雄吾	Pサンドバッグですわ！	N最近元気がありませんわね…		
保護された少女	P 庇護	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセ：サラ	2	2	メジャー	-	-	対決		
効果：	C-Lv							
コキュートス	2	4	メジャー	視界	シーン（選択）	対決	Dロイス	
効果：	攻撃+[Lv×3]ダイス-2　射撃攻撃							
憎悪の炎	1	2	メジャー			対決		
効果：	HPダメージを与えた対象に憎悪付与							
氷盾	6	2	オート	至近	自身	自動		
効果：	ガード時ガード値+［Lv×5］							
鋼の氷	2	2	オート	至近	自身	自動		
効果：	ガード値+10							
焦熱の弾丸	1	1	メジャー	視界		対決		
効果：	攻撃+[Lv+2]　射撃攻撃							
結合粉砕	5	4	メジャー			対決	ピュア	
効果：	ダイス+Lv　装甲無視							
炎陣	1	2	オート	至近	自身	自動		
効果：	行動済みでもカバーリングできる							
アップドラフト	★		メジャー	至近	範囲（選択）	自動		
効果：	上昇気流を発生させ、飛行状態にする							
プラズマカッター	★			至近	自身	自動		
効果：	プラズマで物体を焼き切る							
炎の理	★		メジャー	至近		自動		
効果：	炎を生み出す							
超人的代謝	★		常時	至近	自身	自動		
効果：	データ外の怪我、病気、酔などを治癒							
効果：								

すべてを飲み込んでしまいそうな、漆黒の闇。
そこに燦然と輝く、一摘みにも満たない、けれどもたしかにそこにある光を見た時。
その時に、わたくしはきっと……

――貴族として、恥ずかしくない姿を目指せ

幼い頃より、顔もよく思い出せないお父様に言われ続けたこと。
貴族としての姿とは、何でしょう？
どうしてわたくしが、そう在らねばならないのでしょう？
幼いながらにそう問い詰めたわたくしに対して、お父様はなにやら小難しいことをおっしゃられていました。
その時は聞き始めて直ぐ記憶がなくなり、気がついたらベッドの上に居たので、結局お父様のおっしゃる「貴族としての姿」は今でもわかっていません。
けれども、数々の出来事を超えて今の私が在るのは確かです。

わたくしの一度目の転機は、“リヴァイアサン”――彼のUGN日本支部支部長である、ユーゴ・キリタニと出会ったこと。
彼の御仁は、わたくしの持つ力の扱い方について教えて下さいました。
そうそう、普通の人は自由に炎を出したり出来ないと知ったときは驚きましたわ。
確かに言われてみれば、お父様以外の方の前で炎を出すと、奇異な目で見られていたのを覚えています。

そして、ユーゴに誘われるまま謎の組織へと気がついたら加入させられ、各地で気に入らない連中をぶっ飛ばしていたある日。
「灰被りのノア」そう呼ばれる、大規模テロ事件。そこで、わたくしは二度目の転機を迎えました。